



大人の「譲らない」ことも大切です

一年間で一番、モヤモヤするのが6月です。梅雨に入りじめじめする気候も関係しているのかもしれませんが、さまざまなトラブルが起こってしまう時期でもあります。新学期が始まり学校生活に慣れてきたり、子どもたち同士の関係が深まっていったりすることも要因の一つであると思っています。ですから、学校では前向きにとらえて指導・支援をしています。

6月に入り登校しぶりを含めた「作戦会議」をたくさんしています。今の時代は昔にくらべて子育てするのが難しくなっていると日々感じています。保護者のみなさんの不安や悩みを多く聞くことがあり、大変だと感じていますし、学校としても「ともに」課題を解決していきたいと思っています。

先日、ある保護者の方の話を書く機会がありました。その保護者の方は、毎朝、遅れてでも必ず学校につれてきてくれます。5月に入って登校しぶりが激しくなって、時には1時間ほど下足室で泣いていたこともありましたが、それが6月に入って泣きながらもすぐに離れることができ、今では泣かないですぐ離れて靴を履き替えることができます。少しずつですが、切り替えが上手になって学校でも元気に活動できるようになってきています。

私がすばらしいと思うことは、保護者の方が毎朝、必ず連れてくるということを継続していることです。泣いても、イヤと言っても、学校に行くということについて譲らない態度であることです。毎日、「行きたくない」としぶっている子どもに対して「行くよ」という姿勢を取り続けることはとてもしんどいことです。でもその保護者の方はし続けてくれました。なんでも親の思い通りにさせたらよいわけではないですが、親としてこれは譲れないというところに関しては、怒らずに冷静に「譲らない」を貫くことが大切だと思っています。

子どもの声（愚痴も含めて）を聴いてあげること

我が家の話。高校生の娘が毎日のように愚痴を言います。先生のこと、学校のこと、部活のこと、友達のこと。多岐にわたって愚痴ります。とくに先生の文句を言われると、同業者としてモヤモヤするのは、「先生としてはこんな風に思っているんじゃないかな？」と違う考え方を伝えるのですが、聞いているのかどうか??という感じです。

少し冷静になって考えると、これだけ普段の事を言ってくれるのだから親子関係としては良いのかな!と思っています。おそらく男の子だったら全く何もしゃべってくれないということも想像できます。

人はだれでもそうですが、特に子どもたちは「話を聞いてくれる」大人を信頼すると言われていきます。親でも教師でも同じだと思います。千代田小の先生たちは忙しい中、なんとか子どもたちの声に耳を傾けたいと思っています。そして、子どもたちの愚痴を日々、聞いてくださっている保護者のみなさんにありがたさを感じずにはられません。

さあ、今日も家に帰ったら娘の愚痴を聞いて、信頼関係を築きたいと思います。